

お知らせ

記者発表資料 配布日	平成24年11月1日
---------------	------------

同時発表先：広島市政記者クラブ
広島県政記者クラブ
合同庁舎記者クラブ
中国地方建設記者クラブ

10月31日発生、古川における魚の斃死について（第2報）

平成24年10月31日（水）に古川（広島市安佐南区中筋）においてアユの大量死が確認されました。（他の魚は斃死していません。）

斃死の原因調査結果等をお知らせします。

詳細は別紙のとおりです。

現地状況写真



< 問い合わせ先 >

国土交通省 中国地方整備局 太田川河川事務所



太田川
シンボルマーク

副所長（管理・砂防）
【担当】 管理第一課長
082 - 222 - 9248（直通）

ゆあさ じょうじ
湯浅 丈司
かしはら よしひこ
柏原 良彦



〒730-0013 広島市中区八丁堀3-20 電話：082-221-2436(代表)

ホームページURL：http://www.cgr.mlit.go.jp/oitagawa/

「 」は前回発表資料からの変更点
11月1日16時00分時点

1. 大量斃死発見日

10月31日(木)

2. 発見状況

- ・10月31日に国土交通省太田川河川事務所職員により古川の昭和橋から神田橋の間をパトロールしている時に確認された。
- ・前日の10月30日に一般住民の方より、国土交通省太田川河川事務所に古川の神田橋付近に十数匹の魚が死んでいるとの情報提供あり。
- ・10月30日、14:30から国土交通省太田川河川事務所大芝出張等が現地付近で20匹の魚の斃死を確認し、翌日に下流を国土交通省職員がパトロールした時に約20匹を確認。

3. 発生箇所

河川名：古川 昭和橋から神田橋(安佐南区中筋1丁目)延長約1.2km

4. 発生原因

簡易水質調査の結果、有害な物質は検出されませんでした。
現在、関係機関において魚の斃死の原因調査を行っています。

5. 斃死の規模

内容：魚(アユ)の大量死(約550匹程度)

(アユ以外の魚は現地付近でも泳いでいる。)

規模：昭和橋から神田橋の間の流れの遅い箇所^①で魚が分散して沈んでいる。

6. 対応状況

- ・古川パトロールの結果
10月30日神田橋付近で13匹の斃死を確認。同地点から上流をパトロールし1匹の斃死が確認された。
10月31日に再度、古川全川をパトロールし、約20匹の斃死を確認。
10月31日に維持業者により撤去作業を行い、約270匹の斃死を確認。
11月1日に再度パトロールを行い、数匹の斃死を確認しており、同区間で維持業者により斃死した約250匹のアユを撤去。
- ・簡易水質試験結果
10月30日(火)に2地点で簡易水質分析を行いました^②が、pH値が若干高い状況でした。それ以外は問題になる値はありませんでした。
11月1日(木)に、再度、3地点で簡易水質分析を行い、全ての項目で問題になる値はありませんでした。
- ・魚の斃死の原因調査結果
10月30日(火)に回収した魚の死骸の検視等を実施した結果、アユの生態による自然現象と考えられます。(次ページに記載)

7. 現地対策機関

国土交通省(10/30~11/1)、広島市環境保全課(10/30)、
広島県西部建設事務所(10/30)



8. 取水への影響

当該箇所より下流に取水箇所はありません。

9. 生態系への影響

古川パトロールの結果、現時点でアユ以外の魚の斃死は確認されていません。

【斃死の原因について】

魚体の外観については、異常はみられなかった。

アユは春から夏の成育期を経て秋に産卵を行う。今回のアユは産卵後、生涯を終えたものが大部分と考えられる。

また、この時期は産卵期に入っており、免疫耐性が落ちて産卵途中で斃死に至った個体もあると考えられる。

今年は例年になく多数のアユが古川に遡上しており、産卵のため神田橋から昭和橋の間に集まっている。(広島市からの情報)産卵後に生涯を終えたアユが多く確認されたと考えられる。

【参考：アユの生態】

仔稚魚期 : 9月から11月に河川下流部において親魚が集団で産卵を行い、孵化した仔魚は、直ちに河口沿岸域に流下して、沿岸海域の渚帯で生活する。

幼魚期～成魚 : 3月から5月にかけて、沿岸海域から河川に遡上し、河川の中流域から上流域まで到達した幼魚は餌場として一定の面積に縄張りを張りながら、付着藻類を食べて急速に成長する。

産卵期 : 秋季に入り、昼間の時間が短くなり水温が低下してくると、増水の度に下流域に降下し、卵の成熟を待って、浮石状の瀬で集団産卵を行う。産卵を終えると間もなく死んでしまう。